

第13回公開授業・公開研究会パネルディスカッションまとめ

各スクールステージをつなぐ <引き継ぎ>

卒業生を支える

豊かに生きる力

好きなこと、できること、やりたいと思うことを増やす
→可能性、自分の枠、選択肢がひろがる。

つながり

コミュニケーションツール
苦手なこと・好きなこと も含め

高等部

- ・将来の生活を意識した取組
- ・具体的なモデルのあるあこがれ

つながり

中学部

- ・好きなことをひろげる
- ・経験を積み上げる
- ・強いところやできることを生かす 視点での取組

つながり

小学部

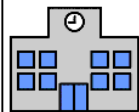
- ・好きなことを土台に
- ・友達と一緒に
- ・いろいろな体験を通した活動

スクールステージはあっても、子どもは連続した存在

トップダウン

ボトムアップ

ギアチェンジは10歳が目安？
みきわめが大切！



本人・保護者を軸に

縦につなぐ・横につなぐ

好奇心+経験
→できること
やってみたいこと

大切にしたい観点
■保護者ととも
■「本人の願い」

* 子どもの好きなこと、できること、やりたいと思っていること、生活状況等を包括的に把握し、全体像を捉えること。

* 周囲からみると「困った行動」に映る子どもの行動の背景には、子どもの願い、発達の要求がある。それを見抜き、そこに新しい可能性を見出すこと。

コーディネーター：和歌山大学教育学部教授 江田 裕介氏
パネリスト：和歌山県発達障害者支援センター長 辻 幸代氏
本校中学部主事 白井 博子
話題提供：平成27年度卒業生保護者 喜多 真澄氏

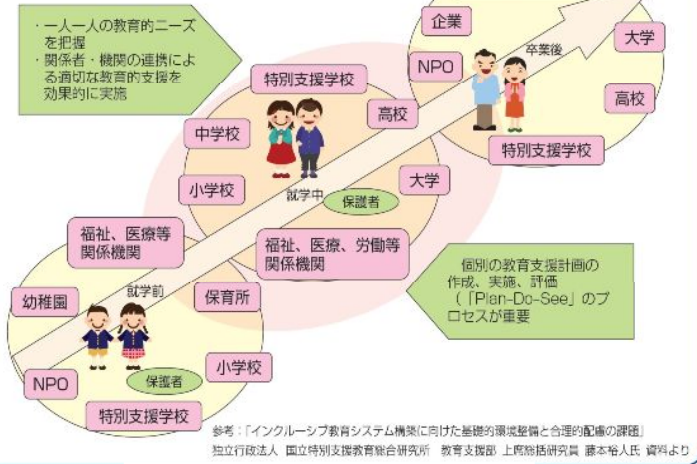


関係機関とつなぐ <連携>

本人の全体像を捉え、スムーズに移行、とぎれない支援

個別の教育支援計画とは

一障害のある子どもを生涯にわたって支援



<つながり愛シートのイメージ図>

今年度のパネルディスカッションをふりかえって、「引き継ぎ」や「連携」の大切さを改めて確認し、「つなぐ」をキーワードにまとめました。
現在私達は、県内統一様式でスタートした「つながり愛シート」とともに、新様式で始めた「個別の指導計画」をもとに日々の実践をしています。子ども達が学校や地域で適切な支援を受けることができるよう、この二つを充実させ、活用していく必要があります。
「つながり愛シート」「個別の指導計画」を充実、活用していくためには、「本人の願い」をも含む子どもの全体像を的確に捉えること、保護者や関係機関と情報を共有し連携すること、子どもの「現在」と「将来」を豊かにするための実践を適切なタイミングで組み立てること等が何より大切だと考えます。障害のある子ども達の指導支援に関わる者として、これらの専門性を高めるために学び続けることが大切ではないでしょうか。